

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総 合 評 価

受診施設名	あみの夢保育園	施設 種別	保育所 (旧体系：)
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成30年 8月22日

総 評	あみの夢保育園は、京丹後市網野町の中心に位置し、京丹後市より平成23年に公設民営保育園として社会福祉法人不動園に委託され、3年後に全面的に民間移譲され、社会福祉法人不動園あみの夢保育園として開園しました。 「感動そして共感と信頼」を法人の理念として掲げ、子ども一人一人に寄り添った保育、地域や家庭との連携、自然の中での体験を大切に日々の保育を行っています。 海・山・川と自然に恵まれた環境の中でのびのびと育った子どもたちは、元気な挨拶と共に人との関わりを心から楽しむ笑顔を見せています。また、「失礼します」「ありがとうございます」といった礼儀をわきまえた姿も見られ、人の中で生活していくうえで財産となる力を温かく伸ばす保育に努めています。 日祝日保育、延長保育、一時保育等年間364日開園している当保育園は、職員同士のつながりも強く、互いに思いやりながら責任感を持って職務を全うしています。 第一、第三金曜日は園庭開放を行い、地域の高齢者施設への訪問を行うなど、刮目すべき開園日数と共に地域へ保育園の持つリソースの還元にも努めています。
特に良かった点(※)	・保護者の意向や家庭状況を反映して園を364日開園しています。そのような中でも、今回の第三者評価の受診を通じて行った自己評価で明らかになった課題についての見直しを行い、より良い保育を目指しています。 ・保育目標にもあるように一人一人に寄り添った保育を実践されています。職員一人ひとりが、子どもたちを温かく受容し、指導計画にも反映され、計画的に目指す姿に応じた保育が行われています。 ・毎年行う職員へのアンケートだけでなく、個別面談を今年度から行うなど、職員の要望や思いを管理者が把握し、より良い労働環境や、個々の希望に応じたキャリアマネジメントを行っています。
特に改善が望まれる点(※)	・管理職は、目指したい方向性やビジョンを持って園の運営を執り行っています。それらのビジョンをより明確なものとし、職員間で共通認識するためにも、具体的に明文化、数値化された中・長期計画を策定すると良いでしょう。 ・月2回の職員会議と年間2回の法人本部とのヒアリングを通して課題の収集や園長からの具体的な方針の提示を行っています。現場の職員も課題に対する改善策の策定や評価に参画する仕組みを整えることで、より一体感を持って保育の質の向上を図れるでしょう。 ・危機管理、保健衛生、実習関係など様々な状況や場面に応じた対応について対処方法を把握していますが、全てにおいて明文化されたマニュアルの作成を行い共有すればなお良いでしょう。

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	あみの夢 保育園
施設種別	保育所
評価機関名	一般社団法人京都府保育委協会
訪問調査日	平成30年 8月22日

保育所評価基準 対比シート（H29年4月～）

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-1(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	a
I-2 経営状況の把握	I-2-2(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	b
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b	b
I-3 事業計画の策定	I-3-3(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	b
	I-3-3(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	a
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-4(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	b
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c	b

[自由記述欄]

・ 保育理念、基本方針、保育目標等が確立、明文化されています。園のパンフレット、入園のしおり、法人のホームページ等に掲載されています。入園時や保護者総会時に資料と共に説明し、職員には朝礼時に、望ましい職員像を中心に確認し、周知しています。

・ 法人本部の経理部門と連携し、年間2回のヒアリングを通して経営状況や経営課題の把握に取り組んでいます。地域の福祉施策や福祉ニーズの収集に取り組み反映できればさらに良いでしょう。また、各種議事録を適切な形で保管、管理することで連続した記録の運用が行え、より継続した取り組みが行えるでしょう。

・ 管理職は、目指したい方向性やビジョンを持って園の運営を執り行っています。それらのビジョンをより明確なものとし、職員間で共通認識するためにも、具体的に明文化、数値化された中・長期計画を策定すると良いでしょう。

・ 単年度の事業計画を策定し、事業の充実を図っています。収支計画などの数値を盛り込むことで、より具体的な計画の策定が行えるでしょう。また、計画策定時や評価の際に、職員が参画し思いや意見を反映できる仕組みを盛り込めばより良い事業計画の作成ができるでしょう。

・ 年間事業計画を入園のしおりに組み込み、入園説明時や保護者会総会の際に説明しています。

・ 月2回の職員会議と年間2回の法人本部とのヒアリングを通して課題の収集や園長からの具体的な方針の提示を行っています。現場の職員も課題に対する改善策の策定や評価に参画する仕組みを整えることで、より一体感を持って保育の質の向上を図れるでしょう。

・ 保護者の意向や家庭状況を反映して園を364日開園しています。そのような中でも、今回の第三者評価の受診を通じて行った自己評価で明らかになった課題についての見直しを行い、より良い保育を目指しています。

Ⅱ 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ	Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b	b
		11	②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	b
	Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	①	保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	b	a
		13	②	経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	b
Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成	Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	14	①	必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	b
		15	②	総合的な人事管理が行われている。	a	b
	Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	①	職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	b
	Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	①	職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	b
		18	②	職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	b
		19	③	職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	b
	Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。	20	①	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b
Ⅱ-3 運営の透明性の確保	Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	21	①	運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	b
		22	②	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	b
Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献	Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。	23	①	子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	b
		24	②	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	b
	Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。	25	①	保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	b
	Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。	26	①	保育所が有する機能を地域に還元している。	b	b
		27	②	地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	b

[自由記述欄]

- ・ 遵守すべき法令等について、全職員が常に確認できるよう工夫されるとより良いでしょう。
- ・ 施設長は、職員が記す年間の反省や気づきをまとめ、園の方針や改善点として発信するなど、保育や施設の質の向上に努めています。
- ・ 年1回職員へのアンケートを行い、保育への取り組みの姿勢の自己評価や、各種の要望を把握するよう努めています。今年度(H30年度)より個別の面談を取り入れ、より職員に寄り添ったマネジメントと人材育成に努めています。
- ・ 年間364日開園の中、人事配置を工夫してキャリアパス研修に職員の派遣を行っています。さらなる人材育成・保育の質の向上につなげるため、全体・個別共に研修計画を明文化し、参加の目的や意図を共有するよう取り組まれると良いでしょう。
- ・ 希望や依頼がある際は積極的に実習生やボランティアの受け入れ行っており、開始前に園の方針や保育目標など丁寧な説明を行っています。注意点等を明文化したマニュアルやプログラムを準備しておく、より良いでしょう。
- ・ 毎月第1、第3金曜日に園庭を開放し、地域の未就園児童と保護者へ遊びの場を提供しています。また、地域のグループホームを訪問し高齢者との交流を深めたり、地域に残る「神楽舞」を園で披露してもらうなど地域交流や文化継承の場として存在しています。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	①	子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	b
		29	②	子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	c	b
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	①	利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a
		31	②	保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	b
		32	③	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b	b
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	①	苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	b
		34	②	保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	b	b
		35	③	保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	b
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	①	安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	b
		37	②	感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	b
		38	③	災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	b
		39	④	不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	b	b
Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	①	保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	a	b
		41	②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	b
	Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	①	アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	b
		43	②	定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	a	b
	Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。	44	①	子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	b
		45	②	子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	b

[自由記述欄]

・保育目標や入園のしおりに、子どもの人権やプライバシー保護に関する記載があり、職員室や入園のしおりに掲示、記載されています。今後は、プライバシー保護、人権についての園の姿勢に関してマニュアル等に明文化し、保護者への確認事項に関して、同意書を作成するとなお良いでしょう。

・入園の際には、事前に個別対応で園の方針や保育内容など園の説明を行い、保育内容などの変更点があれば保護者総会で在園児の保護者にも説明を行っています。

・苦情解決の仕組みは整備され、第三者委員などの連絡先も含め園内に掲示されています。意見箱やアンケート用紙等をわかりやすい場所に設置するなど保護者の意見が出しやすい環境を整備できれば良いでしょう。

・事故発生時や不審者侵入時の緊急時に対応できるよう職員室に連絡先や対応をまとめた掲示がされています。対応の詳細や緊急時の組織図等を明文化したマニュアルを作成し、組織的な対策、体制の整備を進められるとより良いでしょう。また、緊急時のみでなく、日常のヒヤリハットの対応・改善についてもマニュアル化や気づきノートを作成するなど、チェックと改善のサイクルをシステム化し、情報を共有できる仕組みがあればより安全な環境が準備できるでしょう。

・複数で子どもを見守ることで、保育の手法を実地で伝えるOJT環境が整えられています。積み重ねてきた経験を文章化し、保育についての標準的な実施方法についてマニュアルを整備できれば、より良いでしょう。

・入園前の個別面談や事前の保健師との連携を通して個別のニーズの把握に努めています。連携内容の聞き取りの手順などを明文化、取りまとめを行い、マニュアルとして職員の教育等に活用できればより良いでしょう。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-1 (1) 保育課程の編成	46	①	保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b	b
	A-1-1 (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	47	①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	b
		48	②	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	a
		49	③	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	a
		50	④	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b	b
		51	⑤	乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		52	⑥	3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		53	⑦	3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	a
		54	⑧	障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		55	⑨	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	b
		56	⑩	小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a	a
	A-1-1 (3) 健康管理	57	①	子どもの健康管理を適切に行っている。	a	b
		58	②	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
		59	③	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	b
	A-1-1 (4) 食事	60	①	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	a
		61	②	子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a

【自由記述欄】

・全体的な計画の編成や定期的な見直しに職員も参画することで、より現場の声を反映した計画が作成できて良いでしょう。

・自然に恵まれ、子どもたちは近くの海や川の生き物を飼育しています。夏は海辺を散歩、冬は雪遊びと自然を肌で感じることができる環境の中で保育が行われています。今後は、保育室や廊下など心地よく過ごせる空間づくりを工夫すればより良いでしょう。

・保育方針にも明記されている通り、職員一人ひとりが、子どもたちを温かく受容し、一人一人に応じた対応をしています。月間指導計画にも同内容が記載され、計画的に保育が行われています。

・出会う人に元気よく挨拶する子どもたちの姿がいたる所で見ることができました。また、5歳児の子どもたちは自分たちで机や椅子を並べ、活動に合わせて環境を作っていました。

・近隣の高齢者施設訪問や、ボランティアによる読み聞かせなど、地域の人たちと接する機会が持たれ、より多くの経験や出会いが体験できる保育が行われています。

・トイレ等のバリアフリー化など実現化に向けていければより良いでしょう。

・クラス懇談会、個人懇談会、保育参観などで保育やクラスの様子を定期的に保護者に伝えていきます。また、毎日手書きで連絡帳に子どもの様子を記入したり、困りごとによっては、都度個別の懇談を持ったりなど保護者のフォローに尽力しています。

・保育室の環境の工夫や職員の連携などを密に行い、長時間にわたる保育を受ける子どもたちへ配慮を行っています。今後はそういった工夫や連携方法などを明文化し、マニュアルを整理するとともに、定期的な見直しを行えるとよりよいでしょう。

今後は、そういった工夫や連携方法などを明文化しマニュアルに整理するとともに、定期的な見直しを行えるとよりよいでしょう。

・アレルギーのある子どもへの誤食対策には、今後は、食器やお盆の色を変えるなど、外観からも普通食とはっきり区別できるようにするなど誤食防止の工夫をされるとよりよいでしょう。また、職員への園内研修や保護者への啓発を行い、園内にアレルギーになる食品等の持ち込みがなされないような配慮があればより安心感が増すでしょう。

・ピーマンやトマトなどの夏野菜を子どもたちが栽培し、5歳児が収穫したものを他の年齢クラスに紹介したり、切ったものをあげたりしています。また、よもぎ団子や干し柿を作るなどのクッキング体験も行い様々な活動体験ができる保育を行っています。陶器製の食器を使うなど、環境や道具からも食を楽しめるような配慮がなされています。

A-2 子育て支援

評価分類	評価項目	通番	項番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	①	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a	a
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	①	保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	b
		64	②	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	b
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	①	保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	b

【自由記述欄】

・困りごとや苦情など、相談の内容に応じて個別の懇談を随時設けたり、園だよりを通じて保護者への応答、周知を行ったりしています。懇談や相談等の定型的な記録を残し、職員の共通理解や指導計画の見直しの際に活用できればより良いでしょう。

・虐待の早期発見、早期対応のため職員室に連絡先を掲示をするなど虐待防止に努めています。今後は、対応の標準化を職員間で行えるようチェックの方法や連絡先、役割分担などをまとめたものを明文化したマニュアルを整備するとともに対応の記録を残しておくことにより良いでしょう。